

「野の花の丘便り」10月

また来年をお楽しみに

10月になり「野の花の丘」も花がほぼ終わりました。あの憎らしいほど元気だった、セイタカアワダチソウまでしおれてきました。花が寂しくなるこの時期になると、今までどこに隠れていたのかと思うばかり、ユウゼンギクが一斉に咲き出し野の花の丘を埋め尽くしています。また園路の反対側には、ハギの花がまだ咲いています。

ユウゼンギクは、明治時代に日本に渡来した帰化植物で全国に広がっていきました。花が少なくなるこの時期に色どりを添えてくれます。花言葉は「若者に負けぬ元気」「老いても元気で」だそうです。元気すぎて老害とならないように願いたいですね。

ハギはその生命力と花の可憐さから、古く万葉の時代から日本人に愛されてきました。小さく柔らかいピンク色の花のせいでしょうか、ハギの近くにいると通り過ぎて行く風までも、なぜか柔らかく感じられます。

今年も春、夏、秋と沢山の花たちが私たちの目を楽しませてくれました。花は役目を終えて枯れて行きますが大地にしっかりと次の時代の命を託しているようです。

一面のユウゼンギク

と

ハギ

